SONY®

3-297-851-**03**(1)

IC レコーダー

お買い上げいただきありがとうございます

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

取扱説明書

ICD-SX78/SX88

IC RECORDER

 Printed in China

⚠警告　安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

編集する

機能を活用する ー メニュー

パソコンを活用する

困ったときは

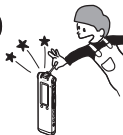
その他

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

- 本製品の不具合により、録音ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合、録音内容の補償についてはご容赦ください。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、IC レコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、コンピューターなどに保存してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド(Ni-Cd)
ニッケル水素(Ni-MH)
リチウムイオン(Li-ion)

乾電池
アルカリ、マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険 充電式電池、乾電池、ボタン型電池が液漏れしたとき

- 充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 充電式電池について

- 機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間USB ACアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素充電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

⚠警告 乾電池、ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。**電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。**
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや、USB ACアダプターで使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。

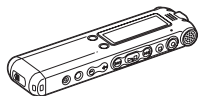
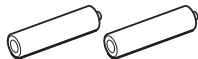
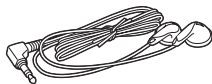
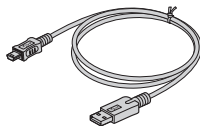
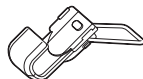
⚠注意 乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

箱の中身を確認しよう

本体(1)

ソニー単4形充電式ニッケル水素電池(2)

ステレオイヤーレシーバー（1）

USBケーブル(1)

スタンド(1)

パソコン用アプリケーションソフト
Digital Voice Editor（CD-ROM）

キャリングポーチ(1)

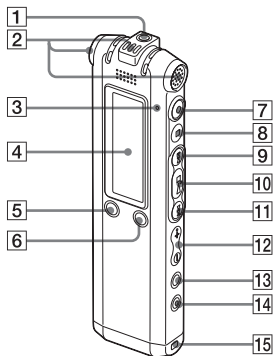
充電式電池用キャリングケース(1)

取扱説明書(1)

保証書(1)

ソニーご相談窓口のご案内(1)

各部のなまえ

本体(表面)

1 ヘッドホンジャック*(24、34、69ページ)

2 内蔵マイク(ステレオ/指向性)(22、26ページ)

3 録/再ランプ(22、25、27、28、33ページ)

4 表示窓(12、13ページ)

5 分割/(ブックマーク)ボタン(30、33、36ページ)

6 (フォルダ)/メニューボタン

7 ●(録音/一時停止)ボタン(22、25、26、27、28ページ)

8 ■(停止)ボタン(23、26、28、33、37、39、41、42ページ)

9 ▶▶I(早送り)ボタン(34ページ)

10 ▶■(再生/停止、決定)ボタン

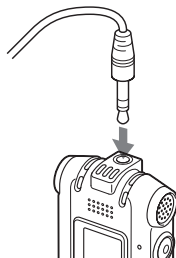
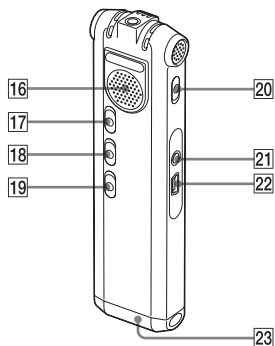
11 I◀◀(早戻し)ボタン(34ページ)

12 VOL(音量)+/−ボタン(24、33ページ)

13 (リピート)A-B/重要ボタン(36、41ページ)

14 消去ボタン(39ページ)

15 ストラップ取り付け部
(ストラップは付属していません。)

* 付属または別売のステレオイヤーレシーバーをヘッドホンジャックに差し込みます。雑音が入るときはイヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

本体（裏面）

16 スピーカー

17 ホールドスイッチ*

18 ボイスアップ 入／切スイッチ（35、48ページ）

19 DPC 入／切スイッチ（35、45ページ）

20 指向性 入／切スイッチ（22、24ページ）

21 🎤（マイク）ジャック（30、31ページ）

22 ⭠（USB）端子（15、55、70ページ）

23 電池ぶた（15ページ）

* 矢印の方向にずらすと、すべてのボタンが操作できなくなります。停止中は「パワーセーブ」を表示して、表示窓の表示がすべて消え電池の消耗を少なくすることができます。

表示窓

停止／再生時

1 動作モード表示
本機の動作状態に応じて下記のように表示されます。

▶：再生中

■：停止中

◀◀ ▶▶：早戻し／早送り再生中

|◀◀ ▶▶|：連続用件戻し／送り

2 フォルダ表示（57ページ）

3 経過時間、残り時間、録音日時表示

4 フォルダ名、用件名、アーティスト名表示

5 電池残量、充電表示
乾電池使用時は電池残量が表示されます。充電中はアニメーション表示になります。

6 位置情報表示
選んだ用件番号／フォルダ内の総用件数が表示されます。

7 重要マーク
用件に設定してある重要マークが表示されます。

8 ブックマーク表示
用件にブックマークが設定されていると表示されます。

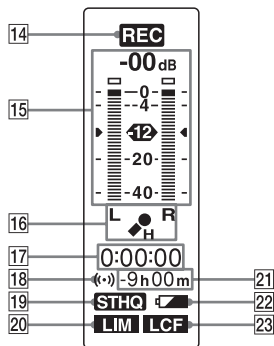
9 アラーム表示
用件にアラームが設定されているとき表示されます。

10 EFFECT表示
メニュー「EFFECT」の設定が表示されます。
BA1：低音強調モード1
BA2：低音強調モード2

11 録音モード表示
停止中はメニューで設定されている録音モードが、再生中はその用件の録音モードが表示されます。
STHQ：ステレオ高音質モード
ST：ステレオ標準モード
STLP：ステレオ長時間モード
SP：モノラル標準モード
LP：モノラル長時間モード
MP3：MP3モード（再生時のみ）

⑫ マイク感度表示
選択している録音時のマイクの感度が表示されます。
：会議録音モード
：口述録音モード
MAN：マニュアル設定モード

⑬ 録音可能時間表示

録音時

⑭ 動作モード表示
本機の動作状態に応じて下記のように表示されます。
REC：録音中
●II：録音スタンバイ／録音一時停止中
REC VOR：VOR録音中
●II VOR：VOR録音一時停止中

⑮ 録音レベルメーター

⑯ マイク感度表示
オート（AGC）録音時、録音マイクの感度が表示されます。
：会議録音モード
：口述録音モード
マニュアル録音時は録音レベルが表示されます。

17 録音経過時間表示

18 アラーム表示

19 録音モード表示
メニューで設定されている録音モードが表示されます。
(STHQ、ST、STLP、SP、LP)

20 リミッター表示(47ページ)
メニュー「LIMITER」の設定が表示されます。オート(AGC)録音時は「−−−」が表示されます。

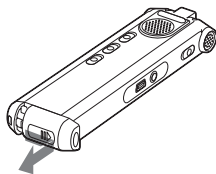
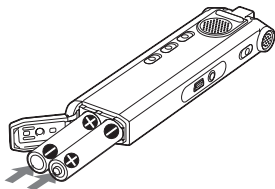
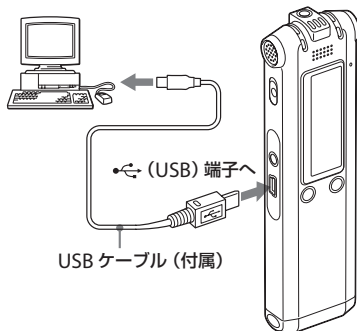
21 録音可能時間

22 電池残量、充電表示

23 LCF表示(44ページ)
メニュー「LCF (LOW CUT)」の設定が表示されます。

準備1: 電源を準備する

お手持ちのパソコンで、付属のアプリケーションソフトDigital Voice Editorを使う場合は、下記の手順3の前にインストールしておくことをおすすめします(52ページ)。

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 充電式電池(付属)を2本入れ、ふたを閉める。

3 本機の•⇠(USB)端子と、電源の準備がされたパソコンを接続し、充電式電池(付属)を充電する。

充電中は、「接続中」と電池マークがアニメーション表示されます。

充電表示が「FULL」になったら充電完了です。(充電時間:約4時間*)

はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、なるべく充電表示が「FULL」になるまで連続して充電することをお勧めします。

充電表示が消灯していたら充電ができていません。手順1からやり直してください。

* 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、前ページの充電時間と異なる場合があります。また、充電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

充電済みの充電池、または別売の単4形アルカリ電池を使うときは

手順1－2にしたがって準備します。

ヒント

USB ACアダプターを使って家庭用電源につないでも(70ページ)、充電できます。

ご注意

- 電池残量、充電表示部に COLD または HOT と表示されている場合は充電ができません。周囲温度が5℃～ 35℃の環境で充電を行ってください。
- メニューで「詳細メニュー」の「USB充電」が「OFF」になっているとパソコンから充電することはできません。設定を「ON」にしてください(48ページ)。
- 本機にはマンガン電池はお使いになれません。

お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかった後に電池を入れたときには、年表示が点滅します。「準備2: 時計を合わせる」(18ページ)の手順4をご覧になり、時計を合わせてください。

電池を交換／充電する時期

電池の残量がなくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。

電池の残量表示

：電池の交換／充電時期が近づいています。

：「電池残量がありません」が表示され、操作ができなくなります。

充電池・乾電池の持続時間

充電池の持続時間[*1]（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAAを連続使用時）

	STHQモード[*2]	STモード[*3]	STLPモード[*4]
録音時	約13時間30分	約14時間30分	約16時間30分
スピーカー再生時[*7]	約16時間30分	約17時間	約17時間30分
ヘッドホン再生時	約22時間	約23時間	約24時間30分

	SPモード[*5]	LPモード[*6]	MP3（128 kbps/44.1kHz）
録音時	約17時間	約19時間	－
スピーカー再生時[*7]	約19時間	約19時間30分	約17時間30分
ヘッドホン再生時	約27時間30分	約28時間30分	約24時間

乾電池の持続時間[*1]（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）を連続使用時）

	STHQモード[*2]	STモード[*3]	STLPモード[*4]
録音時	約13時間30分	約14時間30分	約16時間30分
スピーカー再生時[*7]	約16時間30分	約17時間	約17時間30分
ヘッドホン再生時	約22時間	約23時間	約24時間30分

	SPモード[*5]	LPモード[*6]	MP3（128 kbps/44.1kHz）
録音時	約17時間	約19時間	－
スピーカー再生時[*7]	約19時間	約19時間30分	約17時間30分
ヘッドホン再生時	約27時間30分	約28時間30分	約24時間

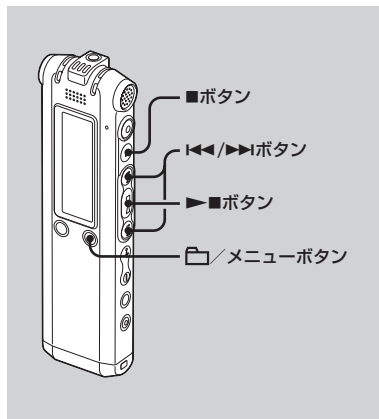
*1 電池持続時間は使用条件によって短くなる場合があります。
*2 STHQモード：ステレオ高音質モード
*3 STモード：ステレオ標準モード
*4 STLPモード：ステレオ長時間モード
*5 SPモード：モノラル標準モード
*6 LPモード：モノラル長時間モード
*7 音量レベルをVOL19に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

アクセス中のご注意

画面上に「データベース更新中. . . 」表示が出ている間や、本体上部の録／再ランプがオレンジに点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、電池をはずしたり、USB ACアダプター（別売）を抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。

ご注意

用件数が多いと、「データベース更新中. . . 」表示が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

準備2: 時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、本機の時計合わせをしておく必要があります。
お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかったあとに電池を入れたときは、「時計を設定してください」が表示された後、年表示が点滅します。手順4から始めてください。

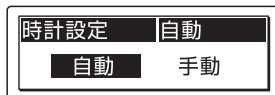
1 メニュー画面で「時計設定」を選ぶ。

①／メニューボタンを長押しする。

メニュー画面が表示されます。

②⏮または⏭ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。

③⏮または⏭ボタンを押して、「時計設定」を選び、►■ボタンを押して決定する。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「自動」または「手動」を選び、►■ボタンを押して決定する。

「自動」を選んだ場合：本機をコンピューターにつないで付属のアプリケーションソフトDigital Voice Editorを起動すると、コンピューターの時計に自動的に合わせます。
「手動」を選んだ場合は次の手順に進んでください。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「08y1m1d」を選び、►■ボタンを押して決定する。

4 年月日と時分を合わせる。

⏮または⏭ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、►■ボタンを押して決定する。

「実行中. . .」の表示が出て、時計合わせが終わります。

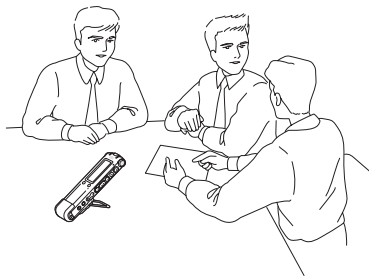
5 通常画面に戻すには■ボタンを押す。

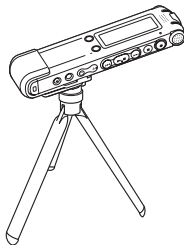
ご注意

それぞれの手順の間を1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。

準備3：用途に合わせた録音設定をする

会議録音の場合

- 「マイク感度」を「会議」に設定する（44ページ）。
- 特定方向の発言者の声を録音する場合は、本機の指向性スイッチを「入」に設定する（24ページ）。
- プロジェクターなどのノイズを低減するには「LCF（LOW CUT）（ローカットフィルタ）」を「ON」に設定する（44ページ）。
- 本機を付属のスタンドに置いて録音すると、テーブルなどからの摩擦音を低減し、指向性のはっきりした聴きやすい録音になります。

楽器録音の場合

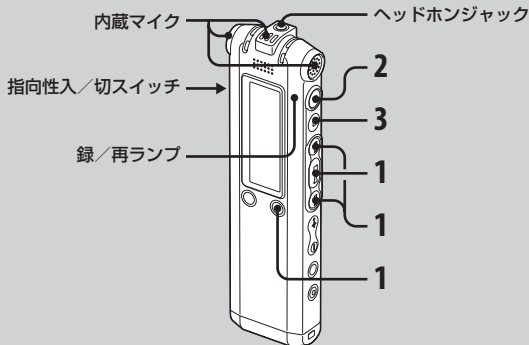
- 録音モードをマニュアル録音に設定（25ページ）すると、大きな音は大きく、小さな音は小さく、抑揚のある録音ができます。
- 「LIMITER」を「ON」に設定すると突発的に大きな音の入力があった場合に音歪みを防ぎます（47ページ）。
- 本機を付属のスタンドを使って三脚（別売）に取り付けると、本機や内蔵マイクの角度をより正確に調節できます。

* 三脚は付属していません。

口述録音（音声認識）の場合

- 「マイク感度」を「口述」に設定する（44ページ）。
- 本体の指向性スイッチを「入」に設定する（24ページ）。
- 別売の音声認識ソフトウェアで音声を文字に変換（テキスト変換）する場合は「録音モード」をSTHQ、ST、STLPまたはSPモードに設定する（44ページ）。

ご注意

- ICレコーダーに対応している音声認識ソフトウェアについては、ICレコーダー・カスタマーサポートページをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/ic-rec-support
- ICレコーダーで録音した音声をテキストに変換する前に、話し手の発音や話しかたのくせを学習させる必要があります。これを「トレーニング」と呼んでいます。「トレーニング」の方法は音声認識ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 認識精度を高めるため、マイクが常に口から2～3センチの位置になるようにICレコーダーをお持ちください。
- 息の音が録音されないように、口の正面ではなく、やや横になるように本体をお持ちください。
- 認識精度を確保するため、なるべく静かな場所を選んで録音してください。
- 会議録音などで複数の人の声を録音した場合、音声認識することはできません。
- 音声認識できるのは、ICレコーダーまたはパソコンに保存されている下記の用件（ファイル）のみです。
  – STHQ、ST、STLPまたはSPモードで録音した用件（DVFファイル）
  – パソコンに保存されている44.1/16/11kHz 16bit WAVファイル

用件を録音する

ここではオート（AGC*）録音の説明をします。工場出荷時の設定はオート（AGC）録音になっています。

* Auto Gain Control

1 フォルダを選ぶ。

①🗀／メニューボタンを押してフォルダ選択画面を表示する。

②⏮または⏭ボタンを押して録音したいフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

2 録音を始める。

①停止中に●（録音）ボタンを押す。

録／再ランプが赤く点灯し、表示窓が録音時表示（13ページ）に切り換わります。

●（録音）ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。

新しい用件は自動的に一番最後に録音されます。

②内蔵マイクに向かって話す。

3 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

今録音した用件のはじめで停止します。

ヒント

- お買い上げ時には5個のフォルダが作られています。ひとつのフォルダには最高999の用件が録音できます。
- Digital Voice Editorを使うと、新しいフォルダを作ったり、フォルダを消去することができます（49ページ）。

ご注意

- 録／再ランプが赤またはオレンジに点灯・点滅中は電池をはずしたり、USB ACアダプターを抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。
- 録音中、本機に手などがあたったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示（16ページ）を確認してください。
- 長時間録音途中の電池交換を避けたいときは、別売のUSB ACアダプターをお使いください（70ページ）。
- 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

その他の操作

操作	方法
録音を一時停止する*	●（録音）ボタンを押す。 録音一時停止中は録／再ランプが赤く点滅し、「●II」（録音一時停止）表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度●（録音）ボタンを押す。 先ほど録音していた用件に続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■（停止）ボタンを押します。）
今録音したばかりの用件を聞く**	►■ボタンを押す。 録音が解除され今録音した用件のはじめから聞くことができます。
早戻し（レビュー）再生する**	録音中または録音一時停止中に⏮ボタンを長押しする。 録音が解除され今録音したところが早戻し（レビュー）再生されます。 ⏮ボタンを離すと、離したところから再生が始まります。続けて上書き録音（28ページ）をしたいときなどに便利です。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

** マニュアル録音時は操作できません。

録音モードを選ぶ

メニュー「録音モード」で、用途に応じた録音モードに設定します。

STHQ：ステレオ高音質モード、ステレオ音声で高音質な録音ができます。
ST：　ステレオ標準モード、ステレオ音声で録音ができます。
STLP：ステレオ長時間モード、ステレオ音声で長時間の録音ができます。
SP：　モノラル標準モード
LP：　モノラル長時間モード、音質を重視しない簡易な録音、メモ録音はLPモードで長時間お使いになれます。

より良い音質で録音したいときは、STHQモードまたはSTモードをお使いください。

録音中の音をモニターするには

イヤーレシーバーをヘッドホンジャックにつないで、モニターします。
イヤーレシーバーからの音量（モニター音量）は、VOL＋またはVOL－ボタンを押して調節します。録音される音量に影響はありません。

録音可能時間について

最大録音時間は、全フォルダ合わせて表のとおりです。

ICD-SX78

STHQモード	STモード	STLPモード
17時間25分	46時間5分	88時間45分

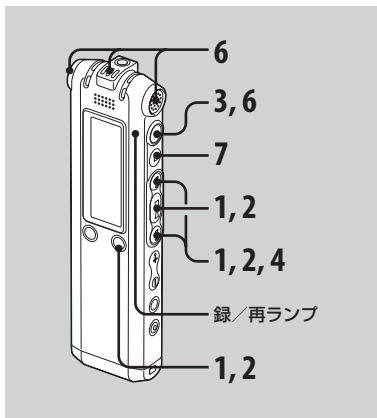
SPモード	LPモード
140時間35分	374時間55分

ICD-SX88

STHQモード	STモード	STLPモード
35時間30分	93時間55分	180時間45分

SPモード	LPモード
286時間10分	763時間15分

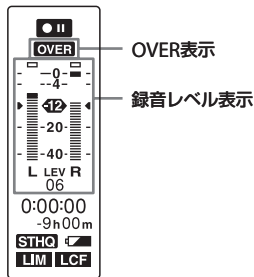
マイクの指向性を切り換える

指向性入／切スイッチを「入」にすると、マイクをむけた方向の音を中心に録音できます。講演や会議での発表者など、特定の方向の音を録音する場合に便利です。
このとき、ステレオ録音モード（STHQ、ST、STLP）が選ばれている場合でも、モノラル録音となります。
外部マイクを接続しているときは、指向性入／切スイッチは働きません。

マニュアル録音

1 マニュアル録音モードにする。
メニューの「録音レベル」で⏮または⏭ボタンを押して、「マニュアル」を選び、►■ボタンを押して決定します。

2 フォルダを選ぶ。
① 🗀／メニューボタンを押してフォルダ選択画面を表示する。
② ⏮または⏭ボタンを押して録音したいフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

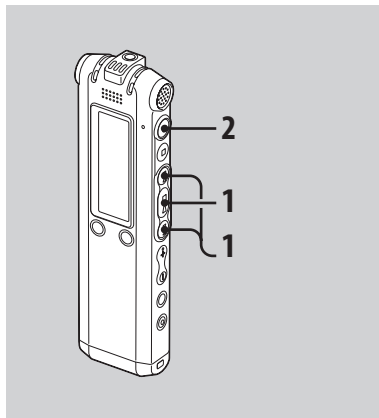
3 ●（録音）ボタンを長押しする。
録音スタンバイ状態になります。マイクの音が入ると、表示窓の録音レベルメーターが動きます。

4 音源の状態に合わせて、録音レベルを調整する。
録音する音源の最大レベルが録音レベル表示で–12dB付近になるように調節して録音をします。
「OVER」表示が出たときは音が歪みますので、「OVER」が表示されないレベルまで⏮ボタンを押して録音レベルを下げてください。

⏮または⏭ボタンを押し続けると連続して変えることができます。レベルメーターの下に数字でも表示されます。

5 録音状態に合わせた設定をする。
メニュー項目で、必要に応じて「LCF（LOW CUT）」や「LIMITER」などの録音に関係ある設定をします（43 ～ 48ページ）。

6 録音を始める。
①●（録音）ボタンを押す。
録／再ランプが赤く点灯し、「REC」が表示されます。
●ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
②内蔵マイクに向かって話す。

7 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

音がしたとき自動録音する－VOR録音

オート（AGC）録音のとき、メニューでVOR（Voice Operated Recording、自動音声録音スタート）機能を設定できます（44ページ）。

1 メニュー画面の「VOR」で⏮またはボタン⏭を押して、「ON」を選び、▶■ボタンを押して決定する。
「VOR」が表示されます。

2 ●（録音）ボタンを押す。

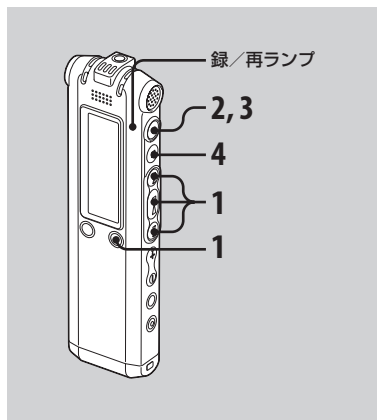
マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、「VOR」と「●II」（録音一時停止）が点滅して、VOR録音が一時停止状態になります。VOR録音一時停止状態のときに、マイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。

VOR録音を解除するには

メニューで「VOR」を「OFF」にします。

ご注意

VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせてマイク感度を切り換えてください。マイク感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、メニューで「VOR」を「OFF」に設定してください。

録音済みの用件に追加録音する

メニューで追加録音を選んで（45ページ）、用件を再生中にその用件に追加して録音することができます。再生中の用件の最後に再生中の用件の一部として追加されます。

• MP3ファイルには追加録音できません。

用件 3 再生中

用件 3	用件 4	

⇩

追加録音後

用件 3		用件 4	

追加した内容

1 メニュー画面の「追加／上書き」で⏮または⏭ボタンを押して、「追加」を選び、►■ボタンを押して決定する。

2 再生中に●（録音）ボタンを押す。

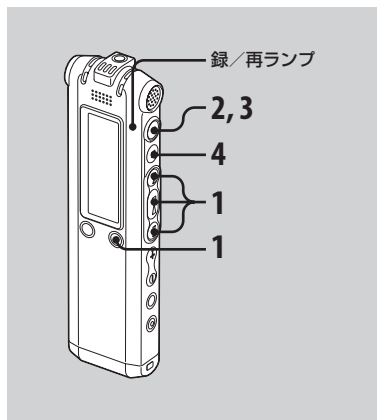
「追加録音しますか？ [録音]ボタンで実行」が表示されます。

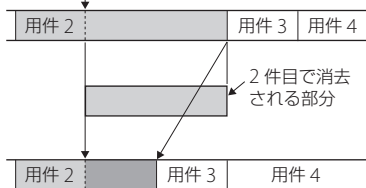
再生については33ページをご覧ください。

3 手順2の表示が表示されている間に●（録音）ボタンを押す。

録／再ランプが赤に変わって、録音が始まります。

4 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

録音済みの用件の途中から上書き録音する

メニューで上書き録音を選んで（45ページ）、用件の中の指定した場所から、新しい用件を上書き録音できます。すでに録音してあった部分は消去されます。

- MP3 ファイルには上書き録音できません。

1 メニュー画面の「追加／上書き」で ⏮または⏭ボタンを押して、「上書き」を選び、►■ボタンを押して決定する。

2 再生中に●（録音）ボタンを押す。

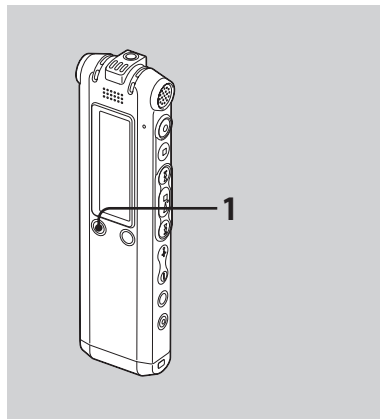
「上書き録音しますか？ [録音]ボタンで実行」が表示されます。

再生については33ページをご覧ください。

3 手順2の表示が表示されている間に●（録音）ボタンを押す。

録／再ランプが赤に変わって、録音が始まります。

4 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

録音の途中で分割して2つの用件として録音する — 分割新規録音

続けて録音しながら新しい用件として録音することができます。

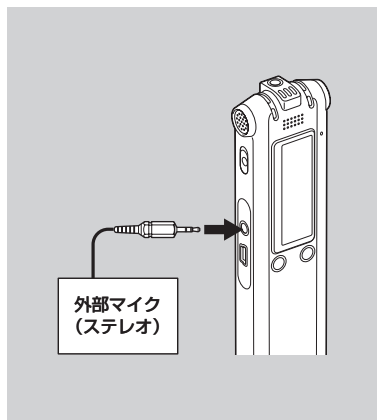
用件1	用件2	用件3

▲ 用件を分割

→ 続けて録音される

1 録音中に分割／ボタンを押す。

レベルメーターの下に分割を示すアニメーションが表示されます。
押したところから新しい用件番号がつき、2つの用件として録音されます。
録音は途切れずに続けて録音されます。

外部マイクをつないで録音する

1 停止中に外部マイクを（マイク）ジャックにつなぐ。

画面に「外部入力選択」が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「MIC IN」を選び、►■ボタンを押して決定する。

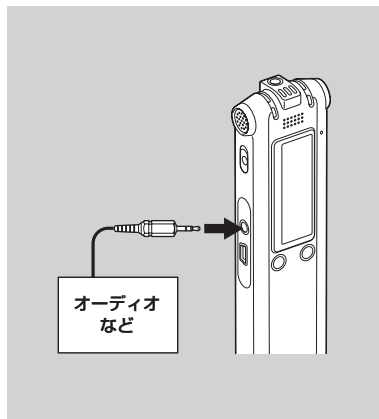
3 **外部マイクを使って録音を始める。**
内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。
入力レベルが適正ではない場合は、本機のマイク感度設定や録音レベル調整を行ってください。
プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

停止中以外の場合は

手順3の前に、「詳細メニュー」で「外部入力選択」を選び、「MIC IN」を選びます。

お使いになれるマイク

ソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホン（ステレオマイク） ECM-CS10、ECM-CZ10（別売）などをお使いいただけます。

他の機器の音声を録音する

1 **停止中に他の機器を本機につなぐ。**
他の機器の音声出力端子（ステレオミニジャック）を別売のソニー製オーディオコード*を使って、本機の（マイク）ジャックにつなぎます。
画面に「外部入力選択」が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「AUDIO IN」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 録音を始める。

内蔵マイクは自動的に切れ、つないだ機器の音声を録音します。
入力レベルが適正ではない場合は、本機のマイク感度設定や録音レベル調整を行ってください。

*お使いになれるオーディオコード（別売）

	本機側	接続先機器側
RK-G139	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ミニプラグ（モノラル）（抵抗なし）
RK-G136	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ステレオミニプラグ（抵抗なし）

停止中以外の場合は

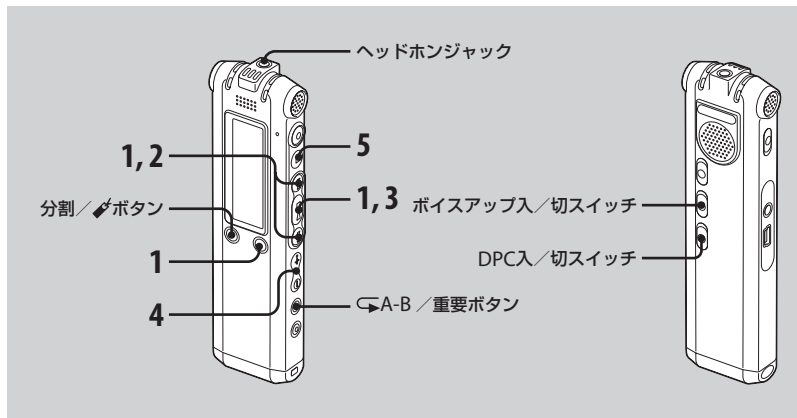
手順3の前に、「詳細メニュー」で「外部入力選択」を選び、「AUDIO IN」を選びます。

電話機や携帯電話の音声を録音するには

別売の電話録音用マイク、ECM-TL1を使うと、電話機や携帯電話での自分と相手の声を録音することができます。
接続方法などについて詳しくは、ECM-TL1の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 録音する場合には、本機と接続後、通話状態と録音レベルをご確認の上ご使用ください。
- 呼び出し音、発信音を録音した場合、会話が小さい音で録音されることがあります。そのような場合には、通話状態になってから本機を録音状態にしてください。
- 接続する電話機の種類、回線の状況によってVOR機能が働かないことがあります。
- 本機を使って通話録音をした場合、万一、これらの不都合により録音されなかった場合は、一切の責任を負いません。

再生する

1 フォルダを選ぶ。

①／メニューボタンを押す。

②⏮または⏭ボタンを押して、フォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、聞きたい用件番号を選ぶ。

3 ►■ボタンを押して、再生を始める。

録／再ランプが緑に点灯します。（メニュー「LED」を「OFF」に設定しているときは消灯します（46ページ）。）

4 音量ボタンで音量を調節する。

5 再生をとめるには■（停止）ボタンを押す。

フォルダ内の最後の用件の再生が終わると、その用件のはじめに戻って停止します。

高音質で再生するには

- イヤーレシーバーで聞く：
  付属のステレオイヤーレシーバーをヘッドホンジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のアクティブスピーカーをヘッドホンジャックにつないでください。

聞きたいところをすばやく探すには－イージーサーチ機能

メニューの中で「イージーサーチ」を「ON」に設定しておくと、再生中に▶▶Iまたは I◀◀ ボタンを何度か押して聞きたいところまで早送り、早戻しをして聞くことができます（45ページ）。I◀◀ ボタンを1回押すごとに約3秒前、▶▶Iボタンを1回押すごとに約10秒先を再生します。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。

再生中に早送り／早戻しするには（キュー／レビュー）

- 早送り（キュー）：再生中に▶▶Iボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。
- 早戻し（レビュー）：再生中にI◀◀ ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。しばらくそのままにすると、高速での早送り／早戻しになります。早送り／早戻し中は、「表示切り換え」の設定（45ページ）に関係なく、カウンター表示になります。

💡 最後の用件の終わりまで再生または早送り（キュー）すると

- 最後の用件の終わりまで来ると、「MESSAGE END」表示が5秒点灯します。
  点灯中は録／再ランプは緑に点灯しています（再生音は聞こえません）。
- 「MESSAGE END」と録／再ランプが消えると、最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「MESSAGE END」の点灯中にI◀◀ ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶Iボタンを押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「MESSAGE END」表示の点灯中にI◀◀ ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しすると素早く探せます。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	■（停止）ボタンまたは►■ボタンを押す。 もう一度►■ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る*	⏮ボタンを短く1回押す。**
前の用件、さらに前の用件に戻る	⏮ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む*	⏭ボタンを短く1回押す。**
さらに次の用件に進む	⏭ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）

* ブックマーク（36ページ）を設定してある場合は、用件の頭ではなく、ブックマークの位置まで進み／戻ります。

** メニュー「イージーサーチ」が「OFF」に設定されている場合の操作です（45ページ）。

さまざまな再生

メニュー画面で、1件用件再生、フォルダ内連続再生、全件連続再生の設定が出来ます（45ページ）。

1件リピート再生

再生中に►■ボタンを長押しします。
「⟲1」が表示されます。
通常再生に戻るには、►■ボタンを押します。

EFFECT再生

メニュー画面で再生時の低音を設定します（45ページ）。

小さな音も聞きやすい大きさで再生する — デジタルボイスアップ機能

停止中または再生中にボイスアップ入／切スイッチを「入」にすると、聞き取りにくい小さな音も聞きやすい大きさに自動調整して再生することができます。
メニューの「詳細メニュー」－「V-UPレベル」で強・弱の設定ができます（48ページ）。

通常の再生音に戻すには

ボイスアップ入／切スイッチを「切」の位置に戻します。

再生速度を調節する — DPC（デジタル・ピッチ・コントロール機能）

再生速度を通常の＋200%から–75%の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

1 DPC入／切スイッチを「入」にする。

2 メニュー「DPC」で再生速度を調節する（45ページ）。

通常の再生速度に戻すには

DPC入／切スイッチを「切」にします。

必要な部分だけを再生する — A-B リピート

1 再生中に⊊A-B ／重要ボタンを短く押して、A点を指定する。

「A-B B?」が表示されます。

2 もう一度⊊A-B ／重要ボタンを短く押して、B点を指定する。

「⊊A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

A-Bリピート再生を止めるには

►■ボタンを押します。

A-Bリピートの範囲を変えるには

A-Bリピート再生中にもう一度⊊A-B ／重要ボタンを短く押すと、手順1に戻ります。

ブックマークを設定する

ブックマークは用件の途中で設定し、再生時に利用します。設定できるブックマークの数は1つの用件に1つずつです。

1 再生中、または停止中にブックマークをつけたい場所で分割／✐(ブックマーク)ボタンを1秒以上押す。

✐表示(ブックマーク)が3回点滅し、ブックマークが設定されます。

すでにブックマークの設定された用件に新たに設定すると、古いブックマークは解除され、新しい位置にブックマークが移動します。

ブックマークの位置から再生を始めるには

停止中に⏮または⏭ボタンを押します。ブックマーク表示が1回点滅したら、►■ボタンを押します。

ブックマークを削除するには

メニュー「ブックマーク消去」で削除します(46ページ)。

ご注意

- MP3ファイルには設定できません。
- 用件の先頭や終端にはブックマークの設定ができません。

希望の時刻に再生を始める — アラーム再生

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生できます。
特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。
設定できるアラームは30件までです。

ご注意

- 時計を合わせていない場合や、用件が録音されていない場合は、アラーム設定はできません。
- フォルダ表示が 🗀 になっているときはアラーム設定ができません(57ページ)。
- メニューで「ビープ」を「OFF」に設定していてもアラームが鳴ります。

1 アラーム再生したい用件を表示させる。

2 アラーム設定をする。

① メニュー画面で「アラーム」を選び、►■ボタンを押して決定する。

② ⏮または⏭ボタンを押して、「新規」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 アラーム再生したい日時、時刻を設定する。

① ⏮または⏭ボタンを押して、「日時」、「月曜日」や「火曜日」など設定したい曜日、または「毎日」を選び、►■ボタンを押して決定する。

② **「日時」を選んだ場合**：
「時計を合わせる」(18ページ)に従って年月日、時刻を設定します。「実行中. . . 」の表示が出て、設定された内容が表示されます。
曜日や「毎日」を選んだ場合：
⏮または⏭ボタンを押して「時」を選び、►■ボタンを押して決定し、⏮または⏭ボタンを押して「分」を選び、►■ボタンを押して設定します。
「実行中. . . 」の表示が出て、設定された内容が表示されます。

メニューを終了すると「(•)」が表示されて、選んだ用件にアラームが設定されます。

設定した時刻になると

約10秒間アラーム音が鳴り、選んだ用件の再生が始まります。
再生が終わると、自動的に停止します(アラーム再生した用件の頭に戻ります)。

アラーム再生された用件をもう一度聞くには

►■ボタンを押すと、その用件のはじめから再生されます。

用件が再生される前に止めるには

アラーム音が鳴っている間に■(停止)ボタンを押します。ホールドスイッチが入っていても止められます。

設定内容を変更するには

1 **メニュー「アラーム」→「アラーム一覧」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

アラーム一覧が表示されます。

2 **I◄◄または►►Iボタンを押して、変更したい設定を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **I◄◄または►►Iボタンを押して「変更」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

4 **「日時」、「月曜日」や「火曜日」など曜日、または「毎日」など、変更したい項目を選び、►■ボタンを押して決定する。**

5 **日時と時刻を選び、►■ボタンを押して決定する。**

「実行中. . .」の表示が出て、変更された内容が表示されます。

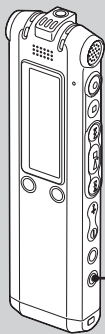
設定内容を解除するには

「設定内容を変更するには」の手順3で「解除」を選び、►■ボタンを押して決定します。「アラームを解除しますか？」が表示されます。

I◄◄または►►Iボタンを押して「はい」を選び、►■ボタンを押して決定するとアラームは解除されます。表示窓のアラーム表示が消えます。

ご注意

- 1件の用件には1個のアラームしか設定できません。
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、「(•)」表示のみが点滅し、録音を終了したときにアラームが鳴り始めます。
- 録音中に2つ以上のアラーム設定時刻になった場合は、録音終了後に時刻の早い方の用件のみアラームが鳴ります。
- メニューモード中にアラーム設定時刻になったときはメニューモードが中止され、アラームが鳴り始めます。
- アラーム設定した用件を用件分割した場合、分けた時点より前の用件にのみアラーム設定されます。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了した後も解除されません。
- アラーム設定が30件になると、新規でアラーム設定をすることができません。別のアラーム設定を解除してください。
- アラーム設定した用件を消去すると、用件に設定されたアラームも一緒に解除されます。

消去する

録音した用件を1件ずつ、または1つのフォルダ内の全用件を一度に消去できます。

ご注意

一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。

1件ずつ消去する

消したい用件だけを消去できます。
用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

1 消去したい用件を再生中に消去ボタンを押す。または、停止中に消去ボタンを長押しする。

用件タイトルと用件番号と、「消去しますか？ [消去]ボタンで実行」が表示され、用件の再生が始まります。

2 「消去しますか？ [消去]ボタンで実行」が表示されている間に消去ボタンをもう一度押す。

用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。

消去を止めるには

■（停止）ボタンを押します。

フォルダの中身を一度に消去する

メニュー「フォルダ内消去」を選ぶ（46ページ）。

用件をふたつに分ける — 用件分割

再生中に用件を分割して、その場所に新しい用件番号が付けられます。会議など1件の用件が長時間になったときなどに、複数の用件に分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。

分割したい用件が入っているフォルダの用件数が999件になるまで、または、フォルダが5個ある場合は、全用件数が1012件になるまで、用件を分割できます。

ご注意

- 用件を分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。詳しくは「システム上の制約」(68ページ)をご覧ください。
- 重要マーク(41ページ)の付いた用件を分割した場合、分割した後ろの用件にも同じ重要マークが付きます。
- 用件タイトルは分割した後ろの用件も同じになります。
- 用件の先頭や終端、ブックマーク付近では分割できません。
- MP3ファイルは分割できません。

用件1	用件2		用件3
	▲ 用件を分割		
用件1	用件2	用件3	用件4

用件番号が1つずつ増える

1 再生中に分割／ボタンを押す。
用件タイトルと用件番号と一緒に「分割しますか？ [分割]ボタンで実行」が表示されます。

2 分割／ボタンを押す。
押したところから新しい用件番号がつき、以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件を別のフォルダに移動する

ご注意

- フォルダ表示が 📁 になっているときはフォルダの移動はできません(57ページ)。

1 移動させたい用件を選ぶ。

2 メニュー「用件移動」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 I◄◄または►►Iボタンを押して、移動先のフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

「実行中. . .」が表示され、フォルダが移動します。

移動すると、もとのフォルダからその用件はなくなります。

途中でフォルダの移動をやめるには

手順3の前に■(停止)ボタンを押します。

用件に重要順位をつける — 重要マーク

「★★★」(最重要)、「★★」、「★」の3種類の重要マークをつけてほかの用件と区別することができます。停止中または再生中に操作ができます。

- MP3ファイルには重要マークは付けられません。

1 重要マークをつけたい用件を表示させる。

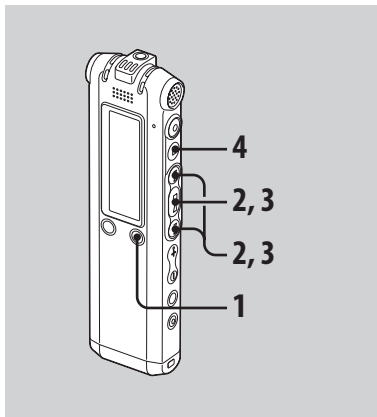
2 A-B／重要ボタンを長押しする。

★マークが点滅します。

3 ★マークを追加するには、A-B／重要ボタンをもう一度長押しする。

ボタンを長押しするたびに以下の順に設定されます。

→重要マークなし→★→★★→★★★

メニューの使いかた

1 **□／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。**

メニュー画面が表示されます。

2 **◀◀または▶▶ボタンを押して、設定したい項目を選び、▶■ボタンを押して決定する。**

3 **◀◀または▶▶ボタンを押して、設定し、▶■ボタンを押して決定する。**

4 **■ボタンを押して、メニューモードを終了する。**

ご注意

約1分間なにもしないと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニュー操作中に □／メニューボタンを押します。

メニュー一覧

メニュー	動作モード(○：設定可能／ー：設定不可）→ 設定項目	停止中	再生中	録音中
録音モード	LP、SP、STLP、ST、STHQ	○	ー	ー
マイク感度	口述、会議	○	ー	○
LCF（LOW CUT）	ON、OFF	○	ー	○
録音レベル	オート(AGC)、マニュアル	○	ー	○
VOR	ON、OFF	○	ー	○
表示切り換え	経過時間、残り時間、録音日時	○	○	ー
DPC	n%（n＝–75 〜 ＋200）	○	○	ー
EFFECT	BASS1、BASS2、OFF	○	○	ー
イージーサーチ	ON、OFF	○	○	ー
再生モード	1件、フォルダ、全件	○	○	ー
追加／上書き	追加、上書き、OFF	○	ー	ー
ビープ	ON、OFF	○	ー	ー
LED	ON、OFF	○	ー	ー
バックライト	10秒、60秒、OFF	○	ー	ー
フォルダ内消去	フォルダ内全消去しますか？ → はい、いいえ	○	ー	ー
ブックマーク消去	ブックマークを消去しますか？ → はい、いいえ	○	ー	ー
用件移動	移動先フォルダ	○	○	ー
アラーム	新規、アラーム一覧 → 変更、解除	○	ー	ー
詳細メニュー		○	○	○
LIMITER	ON、OFF	○	ー	○
外部入力選択	MIC IN、AUDIO IN	○	ー	○
時計設定	自動、手動	○	ー	ー
フォーマット	全てのデータを消去しますか？ → はい、いいえ	○	ー	ー
USB充電	ON、OFF	○	ー	ー
V-UPレベル	弱、強	○	○	ー

メニュー	設定項目（*:初期設定）
録音モード	**音質などを設定します。** STHQ*：ステレオ高音質録音。 ST：ステレオ標準録音。 STLP：ステレオ長時間録音。 SP：モノラル標準録音。 LP：モノラル長時間録音。
マイク感度	**マイクの感度を設定します。「録音レベル」が「オート（AGC）」に設定されているときに有効です。** 会議*：広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。 口述：口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。
LCF（LOW CUT）	**200Hz以下の周波数の音をカットし、風切り音を軽減します（ローカットフィルタ）。** OFF*：LCF機能を解除します。 ON：LCF機能を設定します。
録音レベル	**手動で設定するか、オートにするかを設定します。** オート（AGC）*：録音レベルが自動的に設定され、ひずみのない音で録音できます。「マイク感度」の設定で感度を2段階に調整できます。 マニュアル：録音レベルをお好みに設定して録音できます。（25ページ）
VOR	**VOR（Voice Operated Recording）機能を設定します。「録音レベル」が「オート（AGC）」に設定されているときに有効です。** OFF*：VOR機能は働きません。 ON：ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音を一時停止します。●（録音）ボタンを押して、録音を始めるとVOR機能が働きます。

メニュー	設定項目(*:初期設定)
表示切り換え	**表示モードを設定します。(再生時/停止時に表示される項目です。)** 経過時間*: 1用件の経過時間 残り時間: 1用件の残り時間 録音日時: 録音日時
DPC	**DPC (Digital Pitch Control)の設定をします。** DPCスイッチを「入」にした場合、再生速度を、+200%から−75%の範囲で調節をします。+設定では「+10」刻みで、−設定では「−5」刻みで設定されます。(−30%*)
EFFECT	**再生時の低音効果を設定します。** OFF*: EFFECT機能が働きません。 BASS 1: 低音が強調されます。 BASS 2: 低音が更に強調されます。 **ご注意** スピーカー再生時にはEFFECT機能は働きません。
イージーサーチ	**イージーサーチを設定します。** OFF*: イージーサーチ機能が働きません。⏮または⏭ボタンを押すと、用件を送ります。 ON: 再生中、⏭ボタンを押すと、約10秒進め、⏮ボタンを押すと、約3秒戻ります。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。
再生モード	**再生モードを設定します。** フォルダ*: ひとつのフォルダの用件を連続して再生します。 全件: 全用件を連続して再生します。 1件: ひとつの用件の再生が終わると、次の用件の頭で停止します。
追加/上書き	**追加録音、上書き録音を設定します。** OFF*: 追加録音も上書き録音もしません。 追加: 追加録音を設定します。 上書き: 上書き録音を設定します。

メニュー	設定項目（*:初期設定）
ビープ	**確認音を設定します。** ON*： 操作時の受け付け確認音およびエラーのビープ音が鳴ります。 OFF： 操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません。
LED	**録／再ランプの点灯、消灯を設定します。** ON*： 動作中は録／再ランプが点灯または点滅します。 OFF： 動作中も録／再ランプは点灯／点滅しません。 **ご注意** USBケーブルでパソコンに接続しているときは、「OFF」に設定していても録／再ランプは点灯／点滅します。
バックライト	**バックライトの点灯、消灯を設定します。** 10秒*：バックライトが10秒間点灯して消灯します。 60秒： バックライトが60秒間点灯して消灯します。 OFF： バックライトが点灯しません。
フォルダ内消去	**選んだフォルダの中身をすべて消去します。** 消去する前に、/メニューボタンを押してフォルダを表示させ、消去するフォルダを選んでから、メニューモードにしてください。「はい」を選ぶと消去されます。
ブックマーク消去	**選んだ用件のブックマークを解除します。** 消去する前に、/メニューボタンを押してフォルダを表示させ、消去するブックマークがついた用件を選んでから、メニューモードにしてください。「はい」を選ぶと消去されます。
用件移動	**選んだ用件を選んだフォルダに移動します。** 移動する前に、/メニューボタンを押してフォルダを表示させ、移動したい用件を選んでから、メニューモードにしてください。（42ページ）

メニュー	設定項目（*:初期設定）
アラーム	**アラーム再生を設定します。** 新規*：　日時（再生を始める日時を設定します）、日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、毎日（それぞれ再生を始める時刻を設定します） アラーム一覧：すでに設定してある用件番号、日時、時刻を表示します。 変更：選んだ日時、時刻を変更します。 解除：選んだ日時、時刻の再生を解除します。（アラーム一覧が表示されます。）

詳細メニュー

LIMITER	**マニュアル録音時、突発的な大容量を入力した場合、音の歪みを防ぐために入力を自動的に調整します。** ON*：LIMITER機能を設定します。 OFF：LIMITER機能を解除します。 **ご注意** 「録音レベル」が「マニュアル」に設定されているときに有効です。
外部入力選択	**マイクジャックから録音する外部入力を選択します。** MIC IN*：外部マイクをつないだときに選びます。 AUDIO IN：オーディオケーブルなど、外部マイク以外のものをつないだときに選びます。
時計設定	自動*：本機をコンピューターにつないで、Digital Voice Editorを起動すると、コンピューターの時計に自動的に合わせます。 手動：「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ設定して時計を合わせます。
フォーマット	**「全てのデータを消去しますか？」が表示された後、ドライブの初期化を設定します。** いいえ*：初期化しません。 はい：「フォーマット中...」が表示され、初期化します。 **ご注意** フォーマットは、必ず本機で行ってください。パソコンでフォーマットすると音が途切れたり録音可能時間が短くなってる可能性があります。

メニュー	設定項目(*:初期設定)
USB充電	**USB接続中の充電のON/OFFを設定します。** ON*： 充電式電池を充電します。 OFF： 充電機能は働きません。 **ご注意** 別売のUSB ACアダプターを使って充電するときは、この設定は関係ありません。
V-UPレベル	**ボイスアップスイッチを「入」にしたとき、聞き取りにくい小さな音を大きくするレベルを設定します。** 強*： ボイスアップ機能の効果を大きくします。 弱： ボイスアップ機能の効果を小さくします。

付属のDigital Voice Editorを使う

Digital Voice Editorでできること

Digital Voice Editorを使って、本機に録音した用件をパソコンに取り込み、用件の管理、再生などを行うことができます。

本機で録音した用件をパソコンに取り込む

本機に録音した用件を、USB接続で、用件単位、フォルダ単位、または全用件ごとパソコンのハードディスクなどに保存できます。保存形式は、"メモリースティック"などのMSV（LPEC）ファイル、MSV（ADPCM）ファイル、DVF（LPEC/TRC）ファイル、MP3ファイル、Windows標準のWAVファイルから選べます。

パソコン上で用件を再生する

用件をパソコン上で再生することができます。通常の再生のほか、1件リピート再生、AB間リピート再生、イージーサーチ、ブックマーク再生を行うことができます。また、再生スピードの調節も可能です。

パソコンに保存した用件を本機に追加、本機で再生する

一度パソコンに保存した用件はもちろん、E-mailなどで受け取った音声ファイル（DVF（LPEC/TRC）、MSV（LPEC/ADPCM）、WAV、MP3形式*）を用件単位、フォルダ単位で、USB接続で本機に追加することができます。追加した用件は、本機上で再生できます。

* USB接続で追加する場合は、本機に合ったファイル形式での追加とMP3形式での追加が選べます。

パソコン上で本機内またはパソコンに保存された用件を編集する

用件タイトルやユーザー名の変更、用件のソート、重要マークやブックマークの設定／解除、用件の分割／結合など、パソコン上でさまざまな編集が可能です。本機内の用件については、パソコン上で順番を移動させることができます。また、パソコン内に保存された用件については、音声ファイル形式を変換して保存することができます。

その他の便利な使いかた

– Microsoft Outlook ExpressなどのMAPI対応のメール送信ソフトウェアを利用して音声ファイルを添付して音声メールを送れます。

– 別売の音声認識ソフトウェアDragon NaturallySpeaking™との組み合わせで、本機で録音し、Digital Voice Editorでパソコンに取り込んだ音声を、文字に変換（テキスト変換）することができます。
– Digital Voice Editor側で本機のユーザー名やアラーム再生の設定／解除やその他の動作モードなどを変更することができます。
– CD Recording Tool for DVEを起動して、CDの音声を再生したり、パソコンのハードディスクにDigital Voice Editorの音声ファイル形式で保存することができます。保存したファイルは、Digital Voice Editorを使って本機に追加できます。

CD Recording Tool for DVEは、個人の使用の範囲内でお使いください。

必要なシステム構成

付属のソフトウェアを使うためには、次のようなハードウェア、ソフトウェアが必要です。

- **OS**
  Windows Vista® Home Basic
  Windows Vista® Home Premium
  Windows Vista® Business
  Windows Vista® Ultimate
  Windows® XP Home Edition Service Pack 2 以降
  Windows® XP Professional Service Pack 2 以降
  Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack 2 以降
  Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack 2 以降
  Windows® 2000 Professional Service Pack 4 以降
  標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98/Windows® 98SE/Windows® Me/Mac OS/Linux等）
- 64bit版のOSには対応しておりません。

- 以下の性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機
  - CPU：Pentium II 266MHz以上（Windows Vista® 使用の場合Pentium III 800MHz以上）
  - RAM容量：128MB以上（Windows Vista® 使用の場合 512MB以上）
  - ハードディスクの空き容量：70MB以上（お使いのWindowsのバージョンや音声データの扱う量に比例して必要な空き容量が変化します）
  - ドライブ：CD-ROMドライブ（音楽CD、データCDを作成する場合は、CD-R/RWドライブが必要です）
  - サウンドボード：OSの項に記載されたMicrosoft® Windows®に対応のもの
  - USB ポート
  - ディスプレイ：ハイカラー（16ビットカラー）以上、800 x 480ドット以上
  - インターネット接続環境：音声メール機能および音楽CDのデータベースサービス（CDDB）利用の場合

ご注意

推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。また、自作パソコン等へお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境、Macintoshでの動作保証はいたしません。

音声認識をお使いになる場合のご注意

音声認識ソフトウェアDragon Naturally Speaking™（別売／他社製）と組み合わせて音声認識機能を使う場合は、上記に加えてDragon NaturallySpeaking™が必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。

- 対応音声認識ソフトウェアの詳細は、ICレコーダー・オーディオカスタマーサポートページ（http://www.sony.co.jp/ic-rec-support）をご覧ください。

音声メール送信機能をお使いになる場合のご注意

以下のメールソフトウェアと組み合わせてお使いになれます。上記に加えてお使いになるソフトウェアが必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。なお、音声メールを送るには、別途インターネットサービスプロバイダと契約する必要があります。

- Microsoft® Outlook Express 5.0/5.5/6.0
- Microsoft® Outlook 2000/2002/2003
- Eudora Pro 4.2-J、Eudora 4.3-J（ペイドモード）/5.0-J/5.1-J/6J/7J（製品版）

Digital Voice Editorをインストールする

Digital Voice Editorをパソコンのハードディスクなどにインストールします。

ご注意

- 64 bit版のOSには対応しておりません。
- Digital Voice Editorをインストールする前に本機をパソコンに接続しないでください。先に接続した場合、本機を認識できません。
- インストールの途中で本機の接続ケーブルを抜き差ししないでください。正常にインストールされないことがあります。
- Windows® 2000 Professional上でインストールを行う場合、必ずユーザー名「Administrator」でログオンした後に行ってください。
- Windows Vista® Home Basic/Windows Vista® Home Premium/Windows Vista® Business/Windows Vista® Ultimate/Windows® XP Home Edition Service Pack2以降/Windows® XP Professional Service Pack2以降/Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack2以降/Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack2以降上でインストールを行う場合、必ず「コンピュータの管理者」* に所属するユーザー名(半角英数字のみ)でログオンした後に行ってください。
  * ユーザー名が「コンピュータの管理者」に所属しているかの確認は、Windowsの[コントロールパネル] – [ユーザー アカウント]を開き、表示されるユーザー名の下の部分をご覧ください。
- 本ソフトウェアをインストールすると、インストール先のOSによっては Microsoft DirectX のモジュールがインストールされる場合があります。このモジュールは本ソフトウェアのアンインストールによって削除はされません。
- インストールを始める前に、Windowsの他のアプリケーションは終了させておいてください。既存のDigital Voice Editorを起動している場合も終了させてください。
- 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.0/1.1/1.2/2.0をインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。(本機で"メモリースティック"上の用件の操作、編集ができます。)

1 本機を接続していないことを確認し、パソコンの電源を入れ、Windows®を起動する。

2 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

CD-ROMを入れると「IC Recorder Software Setup」が自動的に起動し「ICレコーダーソフトウェアセットアップ」の画面が表示されます。
起動しない場合は、Windowsエクスプローラで CD-ROMドライブを右クリックして開き、「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。

3 使用許諾契約の内容を確認したら、「使用許諾契約に同意します」を選び、「次へ」をクリックする。

「ソフトウェアインストール」の画面が表示されます。

4 「Digital Voice Editor」を選び、「インストール」をクリックする。

インストール設定を行います。画面の指示に従って操作してください。

Digital Voice Editorの旧バージョン/Memory Stick Voice Editorをインストールしている場合

旧バージョンのDigital Voice Editor/Memory Stick Voice Editorを削除するダイアログボックスが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。用件ファイルは削除されません。

オーナー名を入力する画面が表示されたら

オーナー名を入力します。オーナー名は、Digital Voice Editorの使用権限と範囲を制限するために設定します。

ご注意

- 一度入力したオーナー名は変更することはできませんので、書き留めて保管しておいてください。
- CDから録音されたファイルは録音を行ったパソコンと異なるオーナー名のパソコンでは使用できません。不正なデータ改ざんを行った場合や、個人の使用の範囲外でファイルが使用された場合は、ファイルが再生できなくなったり、Digital Voice Editorが起動できなくなる場合があります。

保存方法を選択する画面が表示されたら

本機で録音したファイルをパソコンに保存するとき、MP3フォーマットに変換するかどうかを設定します。お好みに応じて選んでください。

ICD-Pシリーズを使うかどうかの確認画面が表示されたら

ICD-Pシリーズを使って録音した用件を編集するときは「使用する」を選びます。

5 「インストール準備の完了」の画面が表示されたら、[インストール]をクリックする。

インストールが始まります。

6 「InstallShield Wizardの完了」の画面が表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選び、[完了]をクリックする。

パソコンが再起動します。再起動後、インストールは完了します。

アンインストールする

このソフトウェアが不要になった場合は、以下の手順で削除してください。

Windows2000/XPの場合

1. [スタート]ボタンをクリックし、[設定]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]もしくは[アプリケーションの追加と削除]を順に選ぶ。
2. 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で、「削除」または「変更と削除」をクリックする。
3. 画面の表示に従って操作する。

Windows Vistaの場合

1. [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]→[プログラム]カテゴリ内の[プラグラムのアンインストール]をクリックする。
2. 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で[アンインストールと変更]をクリックする。
3. [ユーザアカウント制御]画面で、[続行]をクリックする。
4. 画面の表示に従って操作する。

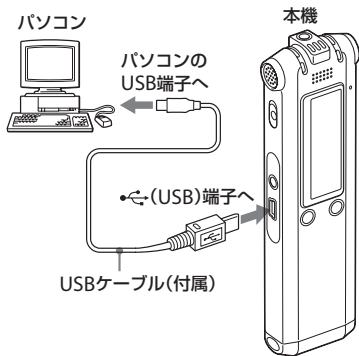
ご注意

このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。ファイルを移動しただけでは、ソフトウェアは動作しなくなります。

ヒント

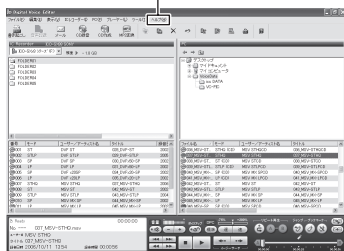
ソフトウェアを削除しても、パソコンに保存した用件ファイルは削除されません。

本機をパソコンに接続する

本機とパソコンで用件をやり取りするためには、本機をパソコンに接続します。
本機の (USB)端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSBケーブルで接続します。
USBケーブルは、本機とパソコンの電源を入れた状態で抜き差しできます。接続するとパソコン側で本機を認識することができ、用件のやり取りが行えます。

ご注意

- 本機をパソコンに接続する前に必ずDigital Voice Editorをインストールしておいてください。インストールしないで接続した場合、「新しいデバイスの検索ウィザード」などが表示されますが、その場合は[キャンセル]をクリックしてください。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作保証はいたしかねます。
- USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、付属のUSBケーブルのみで接続してください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- パソコン接続時は必ず電池を挿入してからお使いください。
- パソコンとは必要なときだけ接続することをおすすめします。パソコンを使って操作しないときは、USBケーブルをはずしておいてください。

ヘルプを見る

各操作の詳細はオンラインヘルプを参照してください。

MP3ファイルを本機で再生する

パソコンにあるMP3ファイルを本機にコピーして、本機で再生することができます。
コピーする方法は、Digital Voice Editorを使う方法と、WindowsのExplorerから直接ドラッグアンドドロップする方法があります。
MP3ファイルを本機で再生する場合の最大再生時間(曲数*)は下記のようになります。

	128 kbps	256 kbps
ICD-SX78	17時間35分(263曲)	8時間50分(132曲)
ICD-SX88	35時間50分(537曲)	17時間55分(268曲)

* 1曲4分を転送した場合

Digital Voice Editorを使ってコピーして再生する

1 付属のUSBケーブルを使って、本機をパソコンに接続する(54ページ)。

2 付属のDigital Voice Editorを起動して、パソコンから本機にMP3ファイルをコピーする。

最大511個のフォルダまで認識できます。各フォルダに1件の用件が入っている場合は、340個のフォルダまで、フォルダが5個の場合は最大1012件の用件まで、1個のフォルダには最大999件まで用件を入れることができます。

3 本機をパソコンからとりはずした後、本機の 🗀/メニューボタンを押してフォルダを選ぶ。

4 ⏮または⏭ボタンを押して再生したいファイルを選び、►■ボタンを押す。

5 再生を止めるには■ボタンを押す。

WindowsのExplorerを使ってコピーして再生する

ご注意

Digital Voice Editorを使わずに、WindowsのExplorerを使って、MP3ファイルをコピーすると、再生は通常通りできますが、ファイル(用件)の追加録音、上書き録音、分割、ブックマークの設定、重要マークの設定などができなくなります。

1 付属のUSBケーブルを使って、本機をパソコンに接続する(54ページ)。

Windows上で「マイコンピュータ」を開き、「IC RECORDER」が新しく認識されているかを確認してください。

2 **パソコン内のMP3ファイルが入っているフォルダを本機にコピーする。**

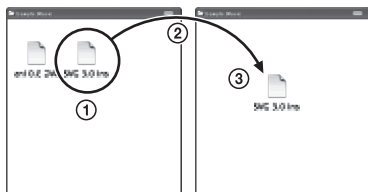
本機では最大500個のフォルダまで認識できます。

1個のフォルダには最大999件の用件を、またフォルダ全体では最大5000件の用件まで入れることができます。

3 **本機をパソコンからとりはずした後、本機の📁／メニューボタンを押してフォルダを選ぶ。**

4 **⏮または⏭ボタンを押して再生したいファイルを選び、►■ボタンを押す。**

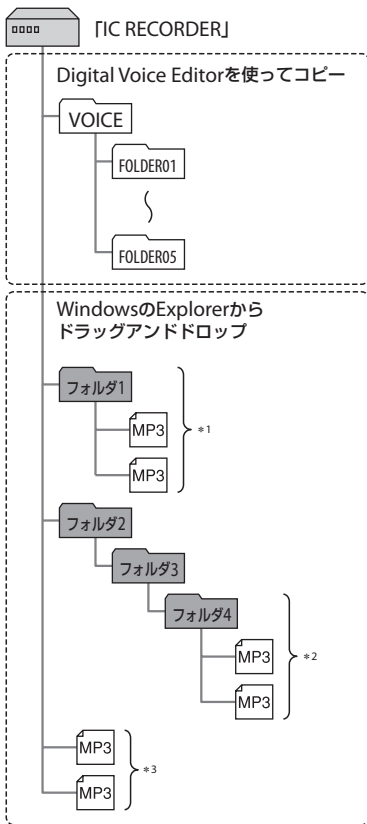
5 **再生を止めるには■ボタンを押す。**

MP3ファイルをコピーする（ドラッグアンドドロップ）

①コピーしたいファイルをクリックしたまま、
②保存先まで移動（ドラッグ）して、
③はなす（ドロップ）

フォルダとファイルの構成

パソコンの画面で見ると右のように表示されます。

フォルダの違いは、本機の表示窓に表示されるフォルダ表示で区別できます。

- 📁：Digital Voice Editorを使ってコピーしたフォルダ
- 📁：Digital Voice Editorを使わずにコピーしたフォルダ

＊1 MP3ファイルが保存されたフォルダ名は本機でも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくと便利です。

＊2 MP3ファイルを認識できるのは、本機にコピーしたフォルダの3階層目までとなります。図の中の「フォルダ4」までが本機で認識されます。

＊3 MP3ファイルを単独でコピーすると「未分類」として扱われます。

ご注意

- Windowsのシステム制約により、パソコンで「IC RECORDER」を開いてすぐの場所（ルートフォルダ）には511個（VOICEフォルダを除く）以上のフォルダまたはファイルを転送することはできません。
- ID3-TAG情報にタイトル名またはアーティスト名が登録されていない場合は、「Unknown」と表示されます。

USBマスストレージとして利用する ― データストレージ機能

本機とパソコンをUSB経由で接続すると、パソコン上にある本機で録音したファイル以外の画像やテキストなどのファイルを本機に一時保存できます。
USBマスストレージとして使うためには、以下のOSとポートを持つパソコンが必要です。

OS

Windows Vista® Home Basic
Windows Vista® Home Premium
Windows Vista® Business
Windows Vista® Ultimate
Windows® XP Home Edition Service Pack 2 以降
Windows® XP Professional Service Pack 2 以降
Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack 2 以降
Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack 2 以降
Windows® 2000 Professional Service Pack 4 以降
標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 自作パソコン等へお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境、Macintoshでの動作保証はいたしません。
- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98 / Windows® 98SE / Windows® Me / Mac OS / Linuxなど）
- 64bit版のOSには対応しておりません。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のICレコーダー･カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口(裏表紙)までお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、72ページをご参照願います。

こんなときは(本機)

症状	原因/処置
表示がついたままで、電源OFFにできない。	• 電源スイッチはありません。表示は点灯のままですが、表示点灯のための消費電流は非常に小さくなっていますので、電池の持続時間にはほとんど影響しません。なお、本機後面のホールドスイッチを矢印の方向に動かして、表示を消すこともできます。また、10分間放置すると表示が消えます。
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池の⊕と⊖の向きが正しくない(15ページ)。 • 電池が消耗している(16ページ)。 • ホールドスイッチが入っている(ボタンを押すと「HOLD」と現在時刻が表示されます)(11ページ)。
スピーカーから音が出ない。	• 音量が絞られている(33ページ)。 • イヤーレシーバーが差し込まれている(34ページ)。
イヤーレシーバーをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にイヤーレシーバーを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんイヤーレシーバーを抜いて、最後までしっかり差し込む。
録/再ランプが点灯しない。	• メニューの「LED」が「OFF」に設定されている(46ページ)。 → 「ON」に切り換える。
「メモリーが一杯です」が表示され、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっている。 → 不要な用件を消去する(39ページ)か、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。

症状	原因／処置
「用件が一杯です」が表示され、操作できない。	• 選んだフォルダに999件の用件が入っているか、または、全体で1012件の用件(フォルダが5個のとき)が入っているため、録音や用件移動、用件分割ができない。 → 不要な用件を消去する(39ページ)か、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。
追加、または上書き録音できない。	• メニューの「追加／上書き」が「OFF」になっているとできません。設定しなおしてください(45ページ)。 • 録音残り時間が不足している場合は追加、または上書き録音できません。なお、上書き録音の場合、上書きされる部分は新たに録音される部分の録音が終わってから消去されるため、録音できるのは現在の残り録音可能時間分のみです。 • MP3ファイルには追加／上書き録音できません。
録音が途中で止まる。	• VORが作動している(26ページ)。VORを使用しないときは、メニューで「OFF」にする(44ページ)。
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 外部マイク(別売)で録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 → プラグをきれいにクリーニングする。
録音レベルが小さい。	• マイク感度が「口述L」(口述録音モード)になっている。 → 「会議H」に切り換える(44ページ)。 → マニュアル録音時であれば、録音レベルを上げる。 • 小さな音が聞きづらいときは、デジタルボイスアップ再生をすると聞き取りやすくなる場合があります(35ページ)。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC入／切スイッチが「入」になっているため、メニューの「DPC」で調整した再生スピードで再生されている(45ページ)。 → DPC入／切スイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、「DPC」で再生スピードを調整してください。
時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていない(18ページ)。

症状	原因／処置
録音日時表示が「--y--m --d」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていない時に録音した用件には、録音した日付は表示されません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生、または録音中は、表示されないメニューがあります（43ページ）。
本機に表示される残り時間が、パソコン上での残量表示より短い。	• 本機ではシステム上必要な領域を差し引いて表示しているため、Digital Voice Editorでの残量表示と異なる場合があります。
電池の持続時間が短い。	• 16、17ページの乾電池の持続時間は、音量ボタンが中間レベル付近で再生した場合の目安です（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）使用時）。使用条件によって短くなる場合があります。
電池を入れたまま長い期間使用しない後で、使おうとすると電池がなくなっている。	• 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。この場合の電池寿命は、温度などの環境によっても異なりますが、約2～3ヶ月が目安です。長い間ご使用にならない場合は、電池を外しておくことをお勧めします。
充電表示が表示されない。	• 充電池が入っていない。 • 充電式電池を入れる向きが正しくない。 • USBケーブルが正しく接続されていない。 • メニューで「詳細メニュー」の「USB充電」が「OFF」になっている。パソコンに接続して充電する場合は、設定を「ON」にする。
途中で充電表示が消えてしまう。	• ニッケル水素充電池以外の電池が入っている。 • 劣化した充電池を使用している。
電池残量、充電表示部に COLD または HOT が点滅表示している。	• 本機の充電可能な温度範囲外になっている。周囲温度が動作温度（5℃～35℃）になるようにする。
充電式電池の持続時間が短い。	• 5℃以下の環境で使用している。電池の特性によるもので故障ではありません。 • しばらく使用していなかった。何回か充電、放電（本機に入れて使用する）を繰り返す。 • 充電池の交換が必要です。新しい充電式電池と交換する。 • 短時間で電池残量表示が点灯しますがフル充電になっていません。電池残量が無い状態からフル充電までは約4時間かかります。

症状	原因／処置
変更したメニュー設定が反映されていない。	• 設定変更直後に電池が抜かれたり、電池残量が無い状態でDigital Voice Editorの「本体設定」を使ってメニューの設定を変更した場合、本機のメニュー設定が反映されないことがあります。
「データベース更新中. . . 」表示が消えない。	• 用件数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
正常に動作しない。	• 電池を取り出して、もう一度入れ直す。
パソコンと接続できない。	• Digital Voice Editorのヘルプをご覧ください。 • 別売のパソコン接続キットICKIT-W1/W2/W5/W7/W9は本機とは接続できません。
本機が動作しない。	• パソコンで初期化（フォーマット）している。 → 本機で初期化を行ってください。（47ページ）

修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

こんなときは（付属のDigital Voice Editor）

Digital Voice Editorのヘルプもあわせてご覧ください。

症状	原因／処置
インストールできない。	• ハードディスクの空き容量が少ない。 → 容量を確認してください。 • Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NTにインストールしようとした。 → 対応しているOSにインストールしてください。（Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NTには対応していません。） • Windows Vista® Home Basic/Windows Vista® Home Premium/Windows Vista® Business/Windows Vista® Ultimate/Windows® XP Home Edition Service Pack2以降/Windows® XP Professional Service Pack2以降/Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack2以降/Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack2以降上で「制限付きアカウント」に所属するユーザー名でログオンしている。 →「コンピューターの管理者」に所属するユーザー名（半角英数）でログオンしてください。 • Windows® 2000 Professional上で全角のユーザー名でログオンしている。 →「Administrator」でログオンしてください。 • 日本語以外のOSにインストールしようとした。 → 日本語のOSにインストールしてください。
本機と接続できない。	• ソフトウェアのインストール、接続ケーブルの接続などを正しく行ったか確認してください。 – 外付けUSBハブをご使用の場合には、直接パソコンに接続してください。 – 本機側の接続ケーブルを抜き差ししてください。 – 他のUSBポートで接続してみてください。 • システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行している。 → システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行しないでください。

症状	原因／処置
再生音量が小さい、 音が出ない。	• サウンドポートがついていない。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • ミュートが解除されていない。 • パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。） • WAVファイルの場合は、サウンドレコーダー（Windows®に搭載）で音量を上げて保存しなおすこともできます。
保存した用件ファイルが再生、編集できない。	• 対応していないファイル形式の用件は再生できません。また、ファイル形式によっては一部の編集機能がお使いになれません。詳しくは、ヘルプをご覧ください。 • CDから録音されたファイルは、録音を行ったパソコンと異なるオーナー名のパソコンでは使用できません。
カウンターやスライダーの動きがおかしい、 雑音が入る。	• 分割／結合、上書き録音、追加録音などを行った用件をパソコン上で再生したときに発生する場合があります。 → いったんハードディスクに保存してから*再度本機に戻すと、データが最適化され、正常な再生に戻ります。（*本機の形式に合ったファイル形式で保存してください。）
用件数が多くなると動作が遅くなる。	• 録音時間の長さに関係なく、本機内の用件の総数が多いと、処理に時間がかかることがあります。
用件の保存・追加・削除中に画面が動かなくなる。	• 録音時間の長い用件の場合、コピーまたは削除に時間がかかります。 → コピーまたは削除が終了するまでお待ちください。通常の操作ができるようになります。
本ソフトウェアを起動したときフリーズ（ハングアップ）してしまう。	• 本機と通信を行っている間は絶対にケーブルを抜かないでください。パソコンの動作が不安定になったり、本機内のデータが壊れる恐れがあります。 • 他にインストールされているドライバおよびアプリケーションソフトとのコンフリクトの可能性があります。 • 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.x/2.xおよびDigital Voice Editor Ver. 2.xをインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。

エラー表示一覧(本機)

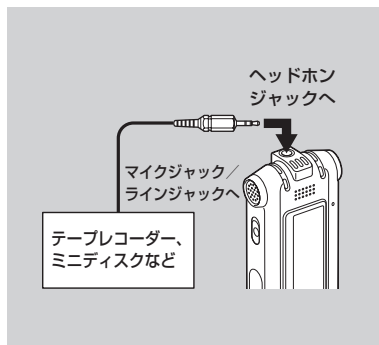
エラー表示	原因
電池が残りわずかです	• 電池が残りわずかのため、フォーマットやフォルダ内消去ができません。新しい電池の準備をしてください。
電池残量がありません	• 電池が消耗しています。充電池を充電するか、充電済みの充電池、もしくは単4形乾電池と取り換えてください。
メモリーが一杯です	• 録音できるメモリー容量がなくなりました。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
用件が一杯です	• フォルダ内の用件の合計か、全体の用件数が最大になったため、用件分割ができません。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
ファイルが壊れています	• 選んだファイルのデータが破損しているので、再生や編集ができません。
本機でフォーマットが必要です	• パソコンで本機をフォーマットしたためUSB接続で電源を入れようとしても、動作に必要な管理ファイル作成ができません。メニューで本機のフォーマットをしてください。パソコンでフォーマットしないでください。
処理を継続できません	• メモリーの読み取りに失敗しました。電池を抜き差ししてみてください。 • 必要なデータをバックアップしてからメニューで本機をフォーマットしてください。 • 上記以外の場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。
時計を設定してください	• 時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。
追加／上書き設定がOFFです	• メニューで追加、上書き録音設定が「OFF」に設定されているので、追加または上書き録音ができません。
用件がありません	• 選んだ用件フォルダには1件も用件が録音されていません。重要マーク、ブックマークの設定、アラーム再生の設定などの操作ができません。
既に設定済みです	• すでに別の用件で同じ日時にアラーム再生が設定されています。設定を変更してください。
過去の日時です	• 現在日時よりも前の日時でアラームを設定しようとしています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください。

エラー表示	原因
登録がありません	• アラーム設定を1件もしていない場合は、「アラーム一覧」は表示できません。アラーム設定を「新規」で設定してください。 • ブックマークを登録していない場合にブックマークを消去しようとしています。
ファイルがプロテクトされています	• 選んだ用件が「読み取り専用」になっています。重要マーク、ブックマークの設定、用件分割、追加録音、上書き録音などができません。パソコン上で「読み取り専用」属性をはずすと、本機で操作できるようになります。 • ファイルがプロテクトされた状態で消去しようとしています。
非対応のデータです	• 本機で対応していないファイル形式のデータです。
操作できません	• 選んだ用件がMP3である場合、重要マーク、ブックマークの設定、用件分割、追加録音、上書き録音などができません。 • 複数のフォルダに同じファイル名の用件が保存されているため、用件移動ができません。ファイル名を変更してください。
オート(AGC)設定時に有効です	• メニュー「録音レベル」が「マニュアル」に設定されています。VOR設定、マイク感度設定などは働きません。
マニュアル設定時に有効です	• メニュー「録音レベル」が「オート(AGC)」に設定されています。LIMITER設定は働きません。
フォルダを切り換えます	• で表示されるフォルダにMP3ファイルがひとつもない場合、フォルダが表示できないため、表示できるフォルダに切り換えます。
登録が一杯です	• アラーム登録は30件までです。未使用のアラーム設定を解除してください。
故障です	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。一度電池をはずし、再度入れ直してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

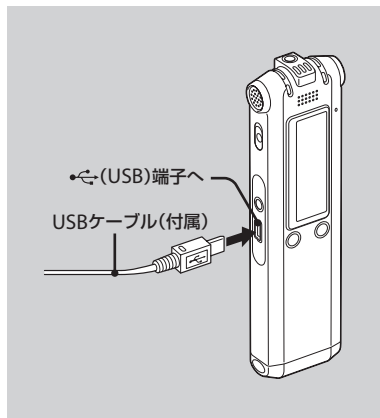
症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	• STHQモード、STモード、STLPモード、SPモード、LPモードを混ぜて録音すると、最大録音時間はSTHQモードとLPモードの最大録音時間の間になります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
用件分割できない。	• 1つのフォルダ内で999件に達すると、用件は分割できません。 • MP3ファイルは分割できません。 • 用件の先頭／終端や、またはブックマーク付近では、分割できません。
MP3ファイルを順番に表示できない。	• Windows上でエクスプローラを使って、本機に転送したMP3ファイルは、Windowsの制約により転送順にならないことがあります。 • 順番をそろえたいときは、付属のDigital Voice Editorを使って転送することをおすすめします。
A-Bリピート設定ができない。	• 一部のICレコーダーでブックマーク設定された用件を本機に取り込むと、A-Bリピート設定ができない場合があります。ブックマーク設定を解除してからご使用ください。
英文字がすべて大文字になってしまう。	• エクスプローラで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。

本機の音声を他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音する場合は、本機のヘッドホンジャックと他の機器のマイクジャックもしくはラインジャック（ステレオミニプラグ）を、別売のソニー製オーディオコード*を使ってつなぎます。

*お使いになれるオーディオコード（別売）

ラインインを使って接続するときは、次の抵抗なしオーディオコードをお使いください。

	本機側	接続先機器側
RK-G139	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ミニプラグ（モノラル）（抵抗なし）
RK-G136	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ステレオミニプラグ（抵抗なし）

USB ACアダプター（別売）につないで使う

USB ACアダプター（別売）を使って、本機と家庭用電源（コンセント）をつないで充電式電池を充電できます。充電をしながら本機を使用することができるため、長時間録音をする場合などに便利です。

1 本機の •⟷（USB）端子に、付属のUSBケーブルをつなぐ。

2 USBケーブルに別売のUSB ACアダプターをつなぐ。

3 USB ACアダプターをコンセントにつなぐ。

充電中は、「接続中」と電池マークがアニメーション表示されます。充電表示が「FULL」になったら充電完了です。（充電時間：約4時間*）
はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、なるべく充電表示が「FULL」になるまで連続して充電することをお勧めします。充電表示が消灯していたら充電ができていません。手順1からやり直してください。

* 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、上記の充電時間と異なる場合があります。また、充電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

ご注意

- 電池残量、充電表示部に **COLD** または **HOT** と表示されている場合は充電ができません。周囲温度が5℃～ 35℃の環境で充電を行ってください。
- 内蔵スピーカーで再生中は充電できません。
- 録音中（録／再ランプが赤に点灯、点滅）やアクセス中（録／再ランプがオレンジに点滅し、「データベース更新中. . .」が表示中）はUSB ACアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。また、用件数が多いと、「データベース更新中. . .」が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
- USB ACアダプター（別売）使用時は、電池残量表示は表示されません。

使用上のご注意

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

ご使用場所について

- 運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ（60℃以上）。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口（裏表紙）、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーおよび付属のWindows®用パソコン接続キットの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

容量（ユーザー使用可能領域）

ICD-SX88：2 GB＝2,081,521,664 Byte
ICD-SX78：1 GB＝1,022,590,976 Byte
本機では、メモリーの一部をデータ管理領域として使用しているため、ユーザー使用可能領域は一般的な容量表示とは異なります。

最大録音時間*

24ページ参照

周波数範囲

STHQ：80 ～ 20,000 Hz
ST：80～16,500 Hz
STLP：80～7,000 Hz
SP：80～6,000 Hz
LP：80～3,500 Hz

MP3対応ビットレート、サンプリング周波数

ビットレート：
32 ～ 320 kbps、
可変ビットレート（VBR）対応
サンプリング周波数：16/22.05/24/32/44.1/48 kHz
すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

スピーカー

直径 16mm

入・出力端子
外部入力(ステレオミニジャック)
　プラグインパワー対応
　最小入力レベル 0.6mV
ヘッドホン(ステレオミニジャック)
　負荷インピーダンス 、8～300Ω
USB端子
　High-Speed USB対応

再生スピード調節(DPC)
＋200%～－75%

実用最大出力
150 mW

電源
DC2.4V、単４形充電式ニッケル水素電池2本
DC3.0V、単４形アルカリ乾電池2本

動作温度
5℃～ 35℃

最大外形寸法
約30.8×119.3×14.9mm
　(幅／高さ／奥行き)(JEITA＊＊)

質量(JEITA＊＊)
約74g (単4形充電式ニッケル水素電池2本含む)

付属品
9ページ参照

別売アクセサリー
アクティブスピーカー SRS-T88
エレクトレットコンデンサーマイクロホン
　ECM-CS10、ECM-CZ10、ECM-TL1
オーディオコード RK-G136/G139
USB充電AC電源アダプター AC-U50AD
充電式ニッケル水素充電池単4形 NH-AAA-2BF
ニッケル水素電池専用充電器 BCG-34HRES

＊ 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは乾電池の持続時間(16ページ)をご確認ください。
＊＊ 電子産業技術協会(JEITA)の測定方法に基づいています。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

数字、記号、アルファベット順

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

著作権と商標について

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

モジュールについて

Digital Voice Editorは、以下のソフトウェアモジュールを使用しています。

Microsoft DirectX

商標について

- Microsoft、Windows、Outlook、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MacintoshはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- Pentiumは米国Intel Corporationの商標または登録商標です。
- Nuance、Nuanceのロゴ、Dragon NaturallySpeaking、RealSpeakは、米国とその他の国々におけるNuance Communications, Inc.、およびその関連会社の商標または登録商標です。

- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Eudora、Eudora Proは、QUALCOMM Incorporatedの登録商標です。
- "Memory Stick"（メモリースティック）および は、ソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick Duo"（メモリースティック デュオ）および MEMORY STICK DUO は、ソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick PRO Duo"（メモリースティック PRO デュオ）および MEMORY STICK PRO DUO は、ソニー株式会社の商標です。
- "MagicGate Memory Stick"（マジックゲートメモリースティック）は、ソニー株式会社の商標です。
- "LPEC"および LPEC は、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本機は、ドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。

音楽認識テクノロジーおよび関連データは、Gracenote® により提供されます。Gracenoteは、音楽認識テクノロジーおよび関連コンテンツ配信の業界標準です。 詳細については、次のWebサイトをご覧ください: www.gracenote.com

Gracenote® はグレースノート社の登録商標です。Gracenoteのロゴとロゴ標記、および「Powered by Gracenote」ロゴはグレースノート社の商標です。Gracenoteサービスの使用については、次のWebページをご覧ください: www.gracenote.com/corporate

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/ic-rec-support)
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時:
    - 型名:ICD-SX78/SX88
    - シリアルナンバー:電池ボックス内
    - ご相談内容:できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時:
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル	**0120-333-020**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2511**
修理相談窓口	フリーダイヤル	**0120-222-330**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX(共通)
0120-333-389
受付時間
月〜金:9:00〜20:00
土・日・祝日:9:00〜17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

3297851O3 (1)